

さまざまな障害のある人たちが、車いすのクリーニングを仕事にしている福祉作業所がある。吉川市の「ひだまり介護事業部」。ここに通う障害者に、体の不自由な人やお年寄りのために働いてほしい。職員そんな思いで6年前に始まり、今では関東各地の病院や高齢者施設から請け負うように。ピカピカにした車いすを掲げて「ありがとう」と言われる障害者は給料もぐんと上がり、仕事が生きがいになりつつある。(杉本慶一)



車いすの汚れを丁寧に拭き、きれいに仕上げている長田さん(左)と杉本さん(右)が吉川市で

### 吉川の「ひだまり介護事業部」

吉川市北部の水田が広がる一帯に、工場のような大きな建物がある。その中で、知的障害者の長田裕華さん(20)と三浦市と身体障害者の鈴木真一さん(20)が台上の車いすに向き合っていた。

長田さんは小さな車輪(「キャストター」)を工具で外し、流し場で水洗い。鈴木さんは大きな車輪のスポークや車輪にこぼりついた汚れを抜き取り、高圧の高気圧で洗浄している。最後に二人でタオルやウエスで全体を丁寧に磨き上げた。「OKです」。約20分間、作業を見守っていた「ひだまり

# 「ありがとう」が励み

## 障害者が車いすクリーニング

「目標の平均工資は3万5000円、取り決まをもっと増やしたい」と話す土屋さん



り2階建ての工場は二さん(20)が笑みを浮かべた。

「二さん、NPO法人「なまの里福祉会」が運営する「ひだまり介護事業部」だ。知的や身体、精神障害のある二さん(五十代の男女十五人が市内外から通い、車いすや介護ベッドを洗浄・消毒したり、中古品を販売したりしている。ここから、

「二さん、NPO法人「なまの里福祉会」が運営する「ひだまり介護事業部」だ。知的や身体、精神障害のある二さん(五十代の男女十五人が市内外から通い、車いすや介護ベッドを洗浄・消毒したり、中古品を販売したりしている。ここから、

### 約100団体・社が顧客

**障害者の作業所と賃金**

「ひだまり介護事業部」のような福祉作業所は、一般就労が困難な障害者に働く機会を提供したり、就労訓練を行ったりする「就労継続支援B型事業所」と呼ばれる。2014年度末でB型事業所は県内に318カ所あり、障害者の賃金に当たる「工資」は14年度で月額平均1万3950円(前年度比641円増)。全国平均を888円下回り、都道府県別では34位(前年度35位)。前は、障害者年金と家賃補助と合わせて障害者が自立して生活できる工資として月額2万円を目標に掲げている。

### 施設長・土屋さん「仕事通じ生きがいを」

「二さんで「車いすの内装は院内感染のリスクになる」「入浴者の家族が来たとき、車いすが汚いと気持ちよく見えないのでは」と説明して回り、納得はしていた」と土屋さん。

「二年度は洗浄・消毒した車いすや介護ベッドは約二百五十台だったが、昨年度は約四百五十台だった。顧客は関東の各福祉と高齢、山梨県内の約百団体・社が増えた。障害者の工資(賃金)も二年度の月額平均約一万円から、昨年度は約一万八千円にアップした。

七年前に職の病気や倒れ、在学中の知的障害者があま鈴木さんは「汚れている車いすより、きれいな方がいいじゃないですか。だから一生懸命きれいにはしたい。僕がここで働けるのは(作業所や家族が)みんなのおかげ、その感謝がしたい」と強く語る。

長田さんは昨日、電車で二時間かけて通っている。「仕事は最初は難しかったけど、だんだん慣れていった(ベテラン)になった。車いすを洗う時、高気圧で「ありがとう」と言われるのがうれしい」

土屋さんは「障害者は自分「ありがとう」と言う機会が多いけど、「ありがとう」と言われることは少ない。この仕事を通じてたくさんの人から感謝され、自分が必要とされているんだ、という気持ちを持ってもらえれば」と願っている。

ひだまり介護事業部の問い合わせは、同部(吉川市南広島)「電話048(999)6161」へ。